

■鷹栖町地球温暖化対策実行計画【区域施策編・事務事業編】 パブリックコメント一覧及び回答

No.	該当箇所	公表用整理	町からの回答	計画反映
1	P18 P21 P28	<p>○P18（1）省エネルギー対策の推進及び実践及びP28（2）具体的な取組内容 職員の意識啓発等ではなく、今日から出来る実践として、自動車通勤を原則禁止とする。必要な職員は駐車許可証を発行する。職員自ら実践することで町民に対して意識啓発になる。バス通勤の職員は地域公共交通の改善にもつながる。</p> <p>○P21（2）再生可能エネルギーの導入促進 CO2ペイバック理論により充分な効果があると言うが、材料のリサイクルについては「望ましい」として義務化していない。有害物質による環境汚染問題もあり、適切な処分がなされない場合の対処方法はどうするのかそれらの問題を含め明記されていないように思う。 ※駐車場の利用状況から半数以上の職員が車通勤ではないだろうか。徒歩、自転車、バス通勤に替えることで温室効果ガスは減少する。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 職員の通勤手段については、今後検討を進めてまいります。 再生可能エネルギーの導入については、ご指摘のとおり、将来的な対応も含めて検討しながら進めてまいります。</p>	—
2	全体	<p>EVや太陽発電を促進していた国が、180度方向転換をしている中で、日本だけが未だにゼロカーボンニュートラルゼロを促進しています。EVが増えると、火力発電所が化石燃料を更に燃やして、タービンを回して発電をしないといけない、EV大国の中国でさえハイブリッドやガソリンエンジンに変えています。充電に時間が掛かり、充電を出来る設備の有る場所が無い、冬の大渋滞に成ったらEVはただの鉄の塊になりしか成らない。太陽パネルは景観を悪く成るし、山に設置したら大雨の時に土砂崩れにも成る。最近は太陽パネルの火災が増えてますが、普通の家の消火の倍以上の時間がかかる。消防士の感電をするからです。能登半島地震でも半壊した家に太陽パネルが設置していると、感電死する事が分かっていて、何故太陽パネルの設置を促進するのか全く理解が出来ない。能登半島地震の教訓を活かす気が全く無いと思います。ゼロカーボンは不可能だと思います。電気自動車を作るにも、大量の電気が必要です。原発が稼働して無い分、天然資源を燃やします。寒い北海道で電気自動車はリスクが高い。太陽光パネルの寿命も短く、廃業した太陽光パネルをリサイクル会社が少なく、最低30万円以上の費用が掛かります。このまま自然エネルギーを増やしたら、電気代が毎年値上げは避けられないと思います。今太陽光パネルでの火災が増えてます。消火する消防士の感電事故も増えてます。能登半島地震でも畠つていても発電してます。救助が出来ないと言われてます。ゼロカーボンにするなら、自動車は無し電気も無し、食料は自給自足、移動は全て歩き、洋服や紙類も草や動物の皮まで、今の近代的な生活を全て捨ててゼロカーボンは実現すると思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 計画策定後も、社会情勢等をふまえ、状況に応じて事業推進を図ってまいります。ご指摘のとおり、災害リスク等も含めて検討しながら進めてまいります。 また、計画においても実質的なゼロカーボンを目指すこととしており、森林等の吸収源に係る整備等を図りながら、取り組みを進めてまいります。</p>	—
3	P23	「サンホールはぴねす」では、賞味期限切れの食品の回収を始めたいです。	ご意見ありがとうございます。 P23にあります、食品ロスに関わる内容と推察します。取り組みに向けては、調査研究を進めてまいります。	—